

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和6年4月～6月実績

令和6年7月～9月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 令和6年4～6月期実績及び令和6年7～9月期見通し
7. 調査時点 令和6年6月1日（土）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	49	29.7%	49	29.7%	100.0%
サービス業	54	32.7%	54	32.7%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

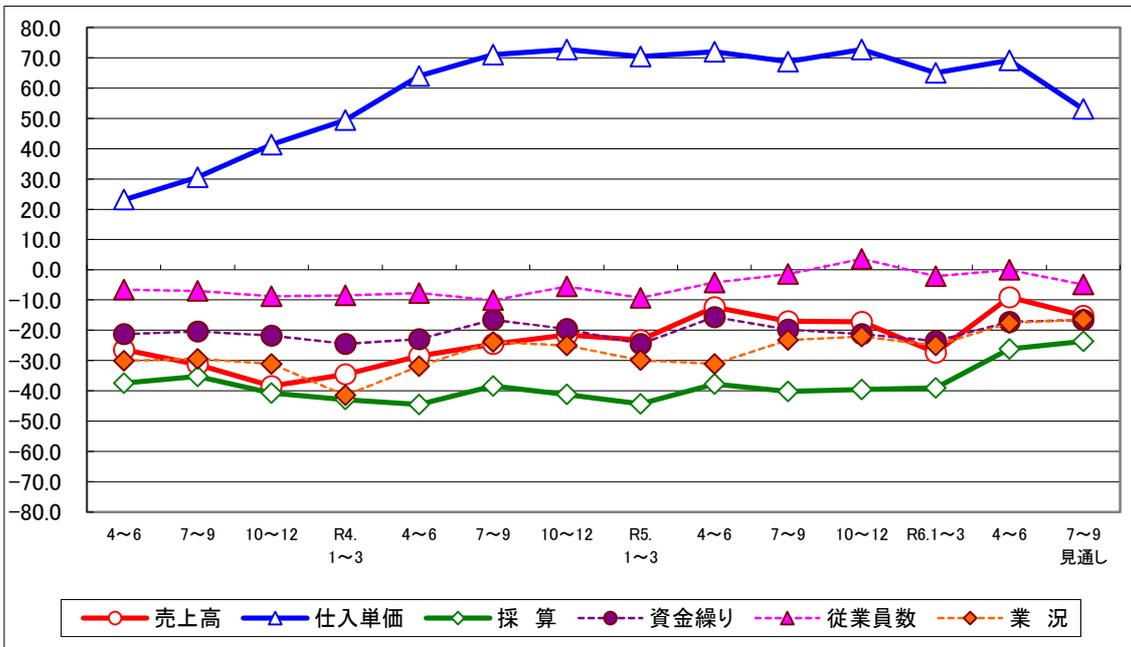
10. 分析執筆者 仁愛大学人間学部 教授、福井県立大学 名誉教授 南保勝氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

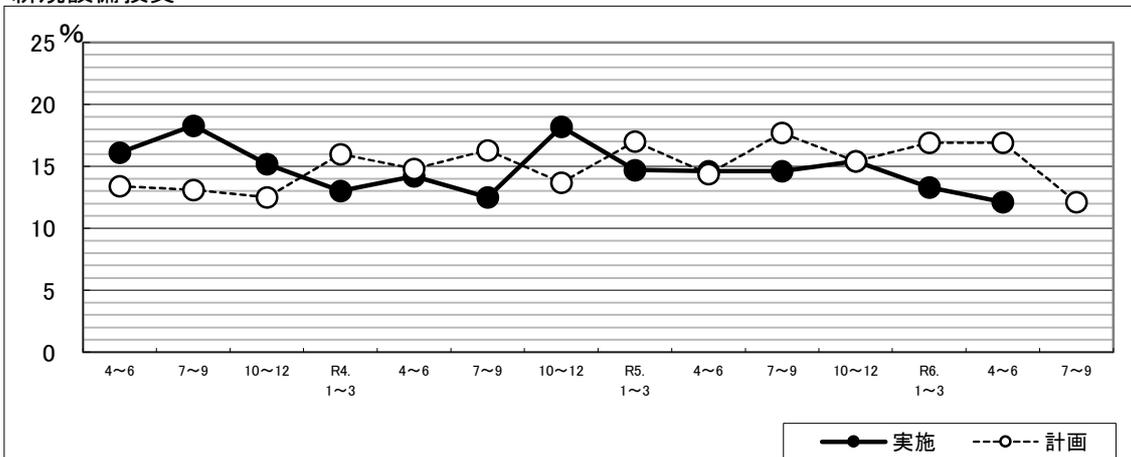
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10~12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1~3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4~6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7~9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10~12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1~3	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
4~6	▲ 9.1	69.1	▲ 26.1	▲ 17.2	0.0	▲ 17.6
7~9見通し	▲ 15.2	53.1	▲ 23.6	▲ 16.6	▲ 4.9	▲ 16.4

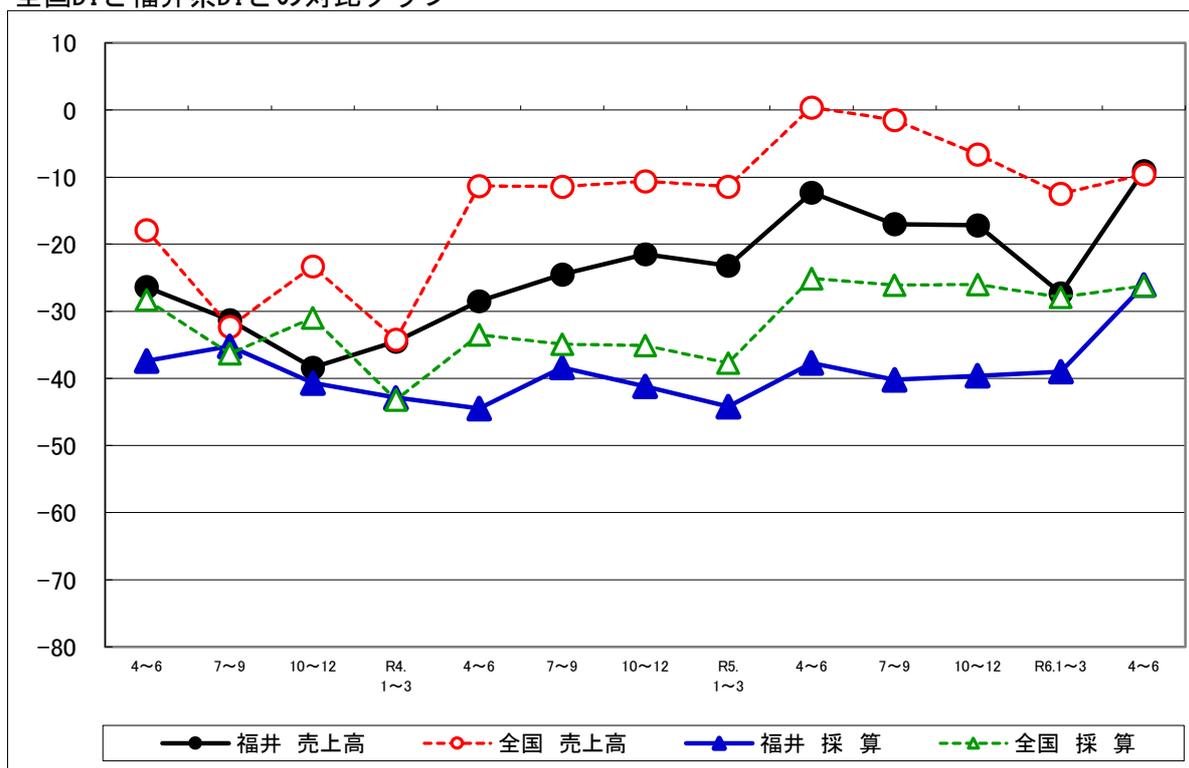
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R6年4-6月期の福井県経済を概観すると、年初に発生した能登半島地震の影響がいまだ一部業種で見られるものの、北陸新幹線の県内開業効果もあって、全体では持ち直しの動きが続いている。ちなみに、企業部門では、生産活動が繊維、化学などで弱含んでいるものの、主力の電子部品・デバイスや化学工業で持ち直しているほか、地場産業の眼鏡枠などでも緩やかに回復している。家計部門では、個人消費面で主要観光地の来訪者数やホテル・旅館の宿泊者数が北陸新幹線の開業効果などから前年を上回っているほか、百貨店・スーパーやコンビニエンスストア、ドラッグストアでも飲食料品などの売れ行きに支えられ堅調な動きを示している。先行き（R6年7-9月期）については、各種の政策効果や北陸新幹線の開業効果などから持ち直していくことが期待されるが、中国を中心とする海外経済の下振れや、金融資本市場の変動、物価上昇の影響などには留意する必要がある。

こうした状況下、今期（R6年4-6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中1項目で悪化、5項目で改善が進んだ。項目ごとのDI値をみると、悪化した項目は仕入単価（逆指数）で前期65.0→今期69.1となっている。改善した項目では、売上高が前期▲27.3→今期▲9.1へ、採算が前期▲39.0→今期▲26.1へ、資金繰りが前期▲23.5→今期▲17.2へ、従業員数が前期の▲2.1→今期0.0へ、業況が前期▲25.0→今期▲17.6となった。総じてみれば、県内の中小企業では、仕入れ単価の悪化がみられたものの、売上高の改善や、それに伴う採算の持ち直しなどから、全体としては堅調に推移。先行きについては、2項目で悪化予測が立てられているが、基調としては持ち直しのまま推移することが予想される。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、売上高、採算の動きはともに改善しており、景況感に大きな差異はみられない。

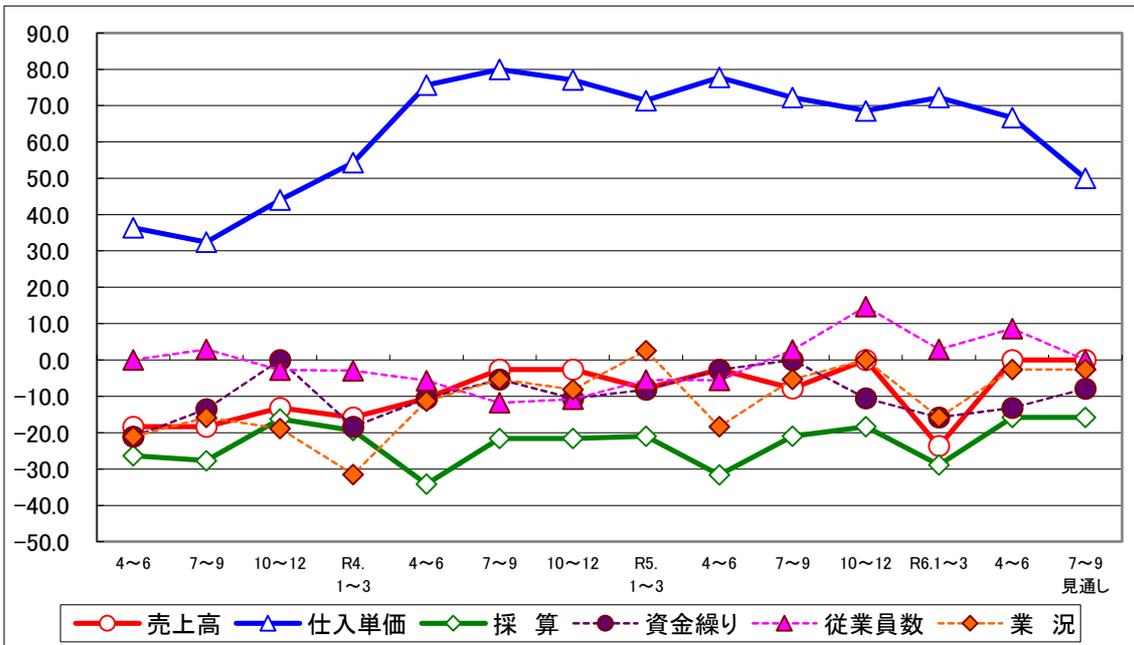
そのほか、今期の新規設備投資については、計画した企業16.9%に対し実施した企業が12.1%と、実施が計画を下回っている。先行きについては、計画している企業が12.1%となっており、投資意欲は今期をやや下回ることが予想される。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

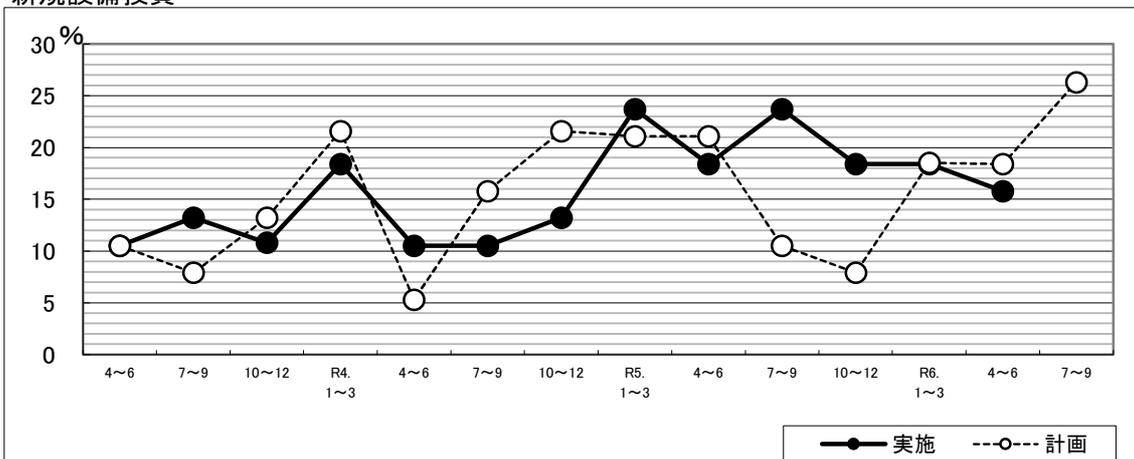
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7~9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10~12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R6.1~3	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
4~6	0.0	66.7	▲ 15.8	▲ 13.2	8.6	▲ 2.6
7~9見通し	0.0	50.0	▲ 15.8	▲ 7.9	0.0	▲ 2.6

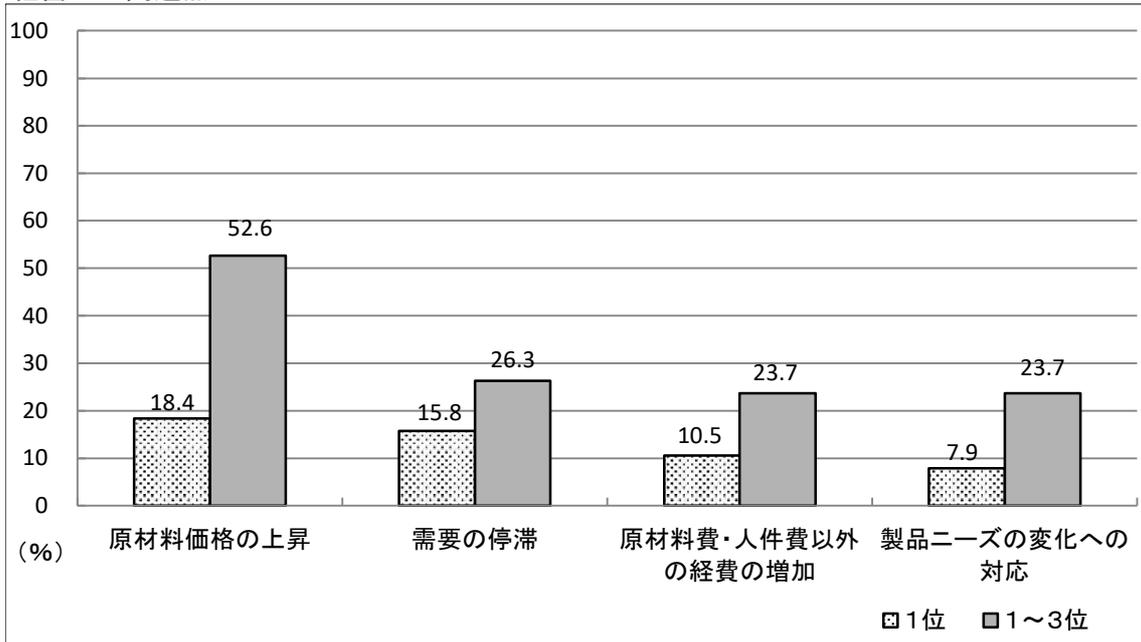
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・新幹線開業で全国のスーパーや小売店から北陸フェア、物産展の注文が増加し、4月～5月の売上が増加した。今後の新幹線効果に期待したい。同時に生産増のため、人員を5名増強し、育成している。
- ・好転しているが、決して業績が良いわけではなく、3月くらいまでの約2年間で悪すぎた。今期くらいが通常の仕事量に戻っただけである。ただ、今後金利為替の上昇で資材の値上げが心配である。
- ・繊維業界全体的に低下気味ではあるが弊社はまだその影響を受けてはいない。量産があつたり無かつたりで、先の見通しを立てにくいのも弊社の業務の特徴である。今期の売上は減少しているが、悪化していることは無い。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業が国内向けなどでやや停滞しているものの、主力の電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に持ち直しているほか、化学工業も環境関連製品などを中心に堅調な推移を示している。その他、眼鏡枠や部品なども緩やかに持ち直しており、その結果、福井県の製造業全体では、業種間格差を伴いながら、緩やかに持ち直している。

こうした中、今期（R6年4～6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値全てが改善傾向となっている。中小の県内製造業では、仕入価格の上昇や人手不足などがみられるものの、価格転嫁による売上の上昇が進んだことや、それに伴う採算の改善などから、概ね持ち直していることがうかがえる。ただ、業種間、規模間格差は否めない。ちなみに、項目別のDI値をみると、売上高が前期▲23.7→今期0.0へ、仕入単価（逆指数）が前期72.2→今期66.7へ、採算が前期▲28.9→今期▲15.8へ、資金繰りが前期▲15.8→今期▲13.2へ、従業員数が前期2.9→今期8.6へ、業況が前期▲15.8→今期▲2.6へと改善が進んだ。先行き（R6年7～9月期）については、3項目で横ばい、2項目で改善予測となり、悪化予測は1項目にとどまっている。

一方、新規設備投資の状況については、計画の18.4%に対し実施が15.8%となり、実施が計画を下回っている。先行き（R6年7～9月期）については、何らかの投資を予定する企業が26.3%にのぼり、来期は投資マインドが今期以上に上向くことが予想される。

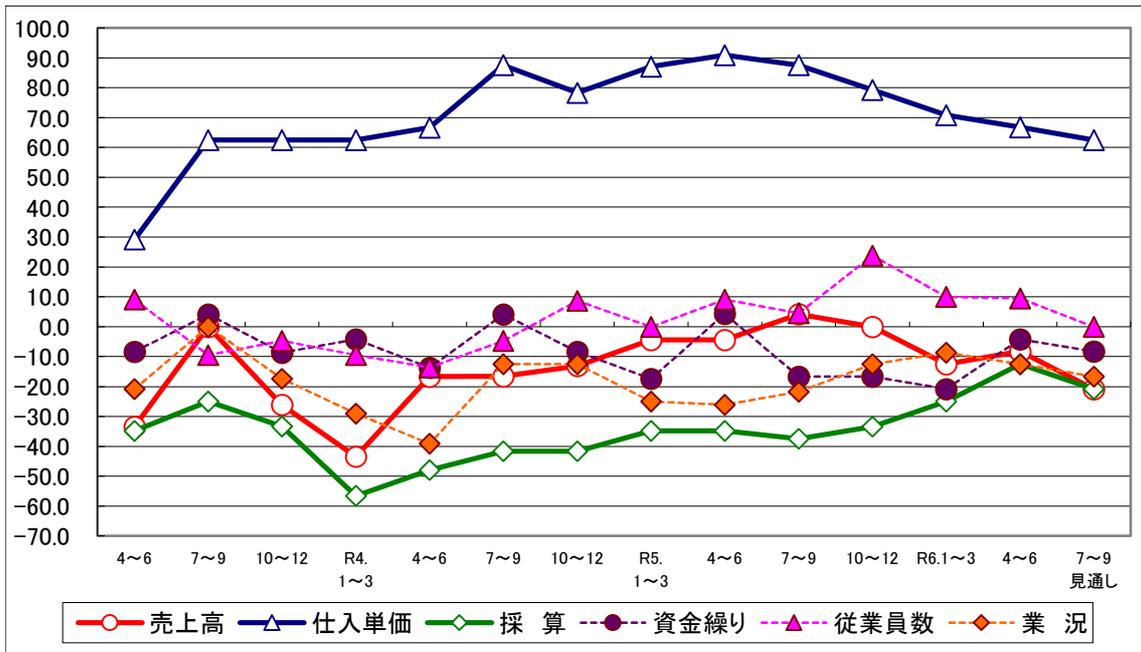
最後に、経営上の問題点については、「原材料価格の上昇」が最も多く18.4%（1位～3位までに挙げた企業52.6%）を占めた。個別の見解としては、「新幹線効果に期待する」声や、「繊維業界全体的に低下気味ではあるが弊社はまだその影響を受けていない」など、前向きな見解がみられた。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

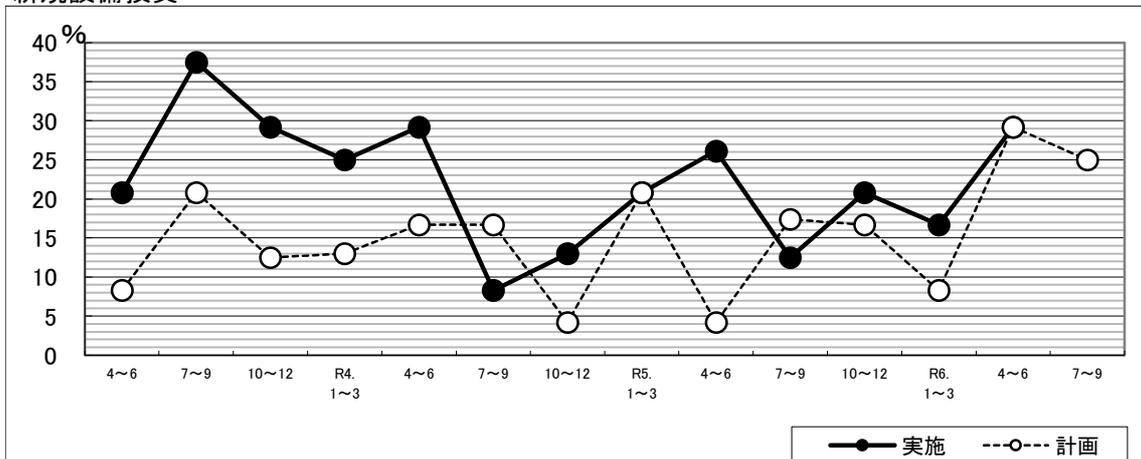
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4~6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7~9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10~12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1~3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4~6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7~9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10~12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1~3	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
4~6	▲ 8.3	66.7	▲ 12.5	▲ 4.2	9.5	▲ 12.5
7~9見通し	▲ 20.8	62.5	▲ 20.8	▲ 8.3	0.0	▲ 16.7

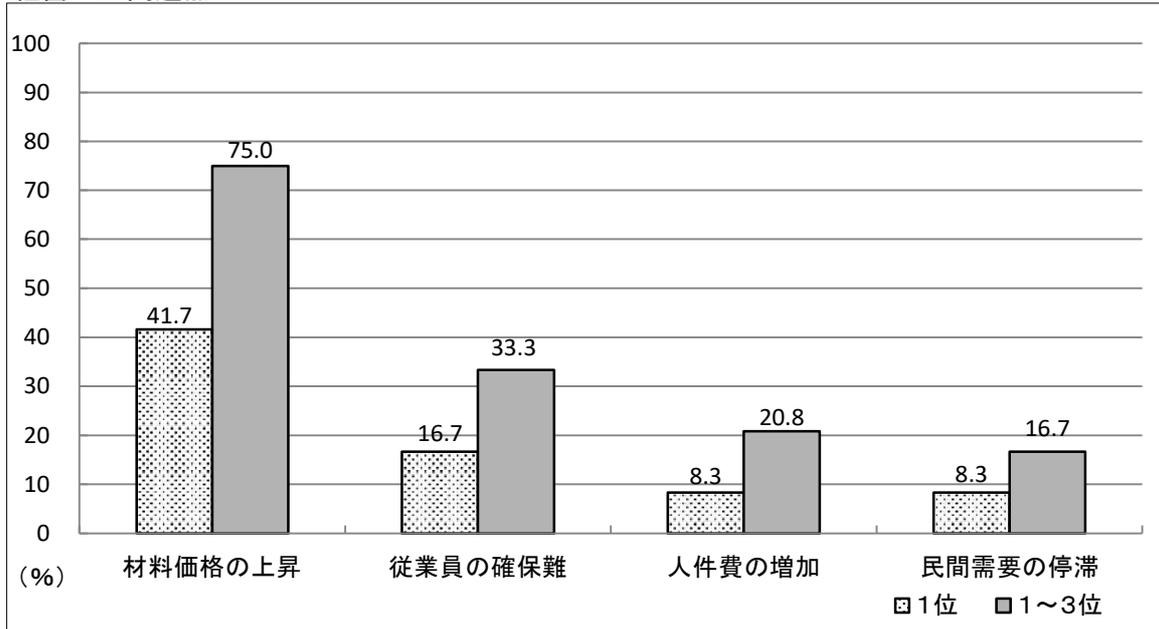
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・原材料や建築資材仕入価格の高止まりに加え、借入金利の上昇による資金繰りの悪化、北陸新幹線関連工事の終息による官民工事の大幅減少など複数要因により、受注が減少しているため。
- ・円安により銅ベースが大きく上昇し採算悪化が急速に進んでいる。物価スライドに対応しきれていない市町の工事で特に顕著であり、発注者の早急な対応が必要。人材確保難も変わらず深刻で、前述の円安と合わせ厳しい。
- ・毎年4～6月期は民間・官公庁共発注、設備投資が落ち込む傾向にある為、今年も例年並みと感じている。

建設業の景況

福井県内におけるR6年4～5月期の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）で、請負金額が累計691億62百万円の前年同期比11.8%の増加、発注件数では同881件の同6.5%減となっている。主な発注者別でみると、県関連工事が163億86百万円の前年同期比0.4%減となったほか、市町村関連工事も153億49百万円の同16.4%減となった。そのほか国関連工事は219億21百万円で、同69.3%の大幅増加となった。一方、住宅投資については、R6年4～5月の累計で、前年同期比12.7%減の675戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比6.2%減の376戸、貸家が同21.9%減の235戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰や人手不足などから厳しい経営環境を強いられている。ただ、一部企業ではリフォーム関連で新たな需要を見出す例もみられ、企業による業況格差が広がっている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が4項目、悪化した項目が2項目となった。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲12.5→今期▲8.3へ、仕入単価（逆指数）が前期70.8→今期66.7へ、採算が前期▲25.0→今期▲12.5へ、資金繰りが前期▲20.8→今期▲4.2へと改善。一方、従業員数（前期10.0→9.5）、業況は（前期▲8.7→今期▲12.5）は悪化が進んだ。また、先行き（R6年7～9月期）については、悪化予測が5項目を数え、景況に対する業界内での見方は引き続き厳しいものとなっている。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業と実施した企業ウエイトが29.2%となり、まずまずの投資状況となっている。先行き（R6年7～9月期）についても、投資計画を持つ企業が25.0%に達しており、引き続き投資マインドは旺盛のまま推移することがうかがえる。

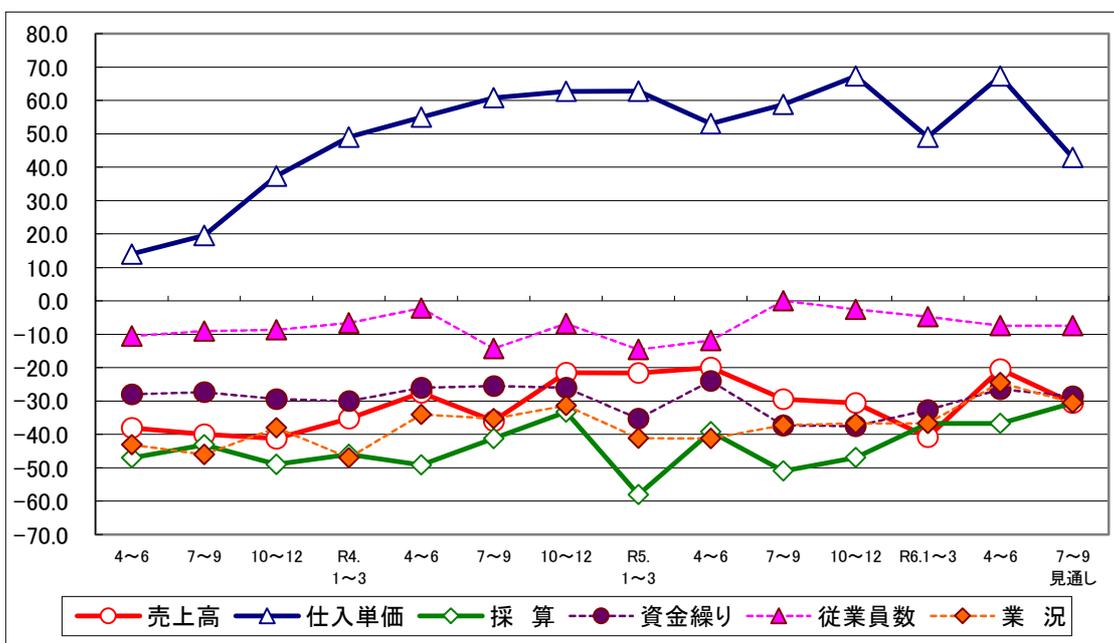
最後に、経営上の問題点については、「材料価格の上昇」が最も多く41.7%（1位～3位に挙げた企業75.0%）を占めた。個別の見解としては、「原材料や建築資材仕入価格の高止まりに加え、借入金利の上昇により資金繰りが悪化している」など、悲観的な見解が目立っている。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

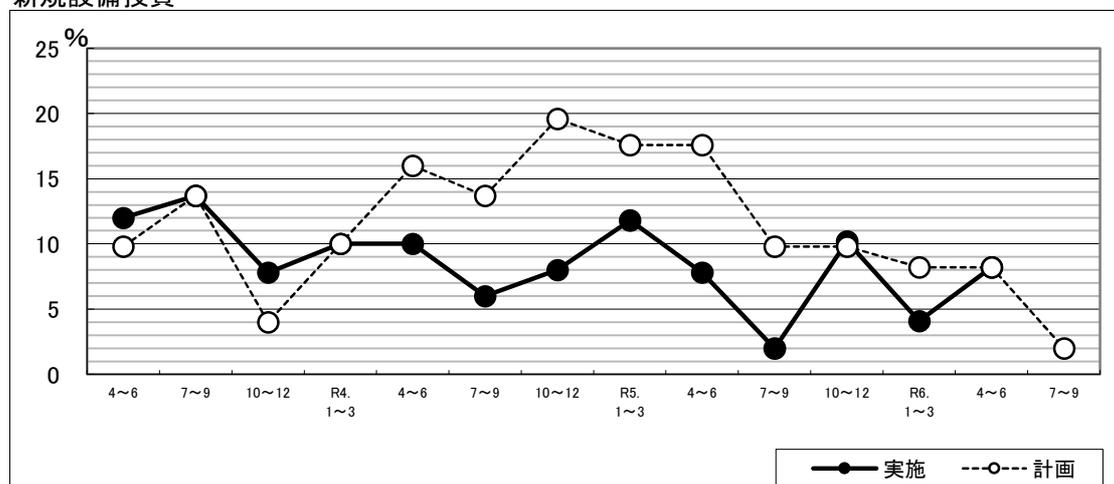
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7~9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10~12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R6.1~3	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
4~6	▲ 20.4	67.3	▲ 36.7	▲ 26.5	▲ 7.5	▲ 24.5
7~9見通し	▲ 30.6	42.9	▲ 30.6	▲ 28.6	▲ 7.5	▲ 30.6

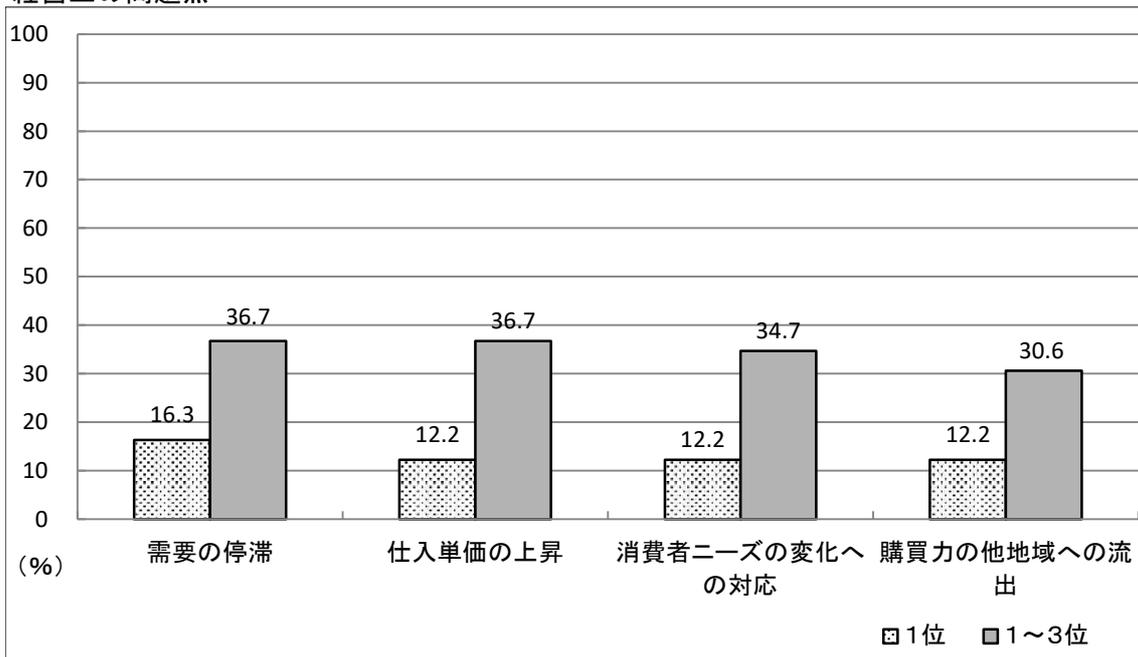
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・原油高によるガソリン灯油軽油の仕入価格が安定してきたことで、販売量自体は前期と比べ横ばい。利用客の大幅な増減はなく、緩やかな利用数の自然減をどうやってカバーするかが課題である。
- ・コンビニやドラッグストアなど資本力では太刀打ちできない。昔からの固定客がいるが高齢化が進み購買力が落ちているため、売上高の下げ止まりは見込めない。
- ・4年に1度の需要増で今期は好転した。しかしながら全体的には売上の減少がこれからも続いていくと思う。事業は縮小傾向にある。

小売業の景況

最近の小売商況をみると、北陸新幹線の県内開業効果もあって、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストアなど地域の専門店を中心に持ち直している。ただ、近畿経済産業局が公表するR6年5月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、ラグジュアリーブランドの衣料品・バッグ、化粧品などが堅調ながら、身の回り品、家庭用品、家庭用電気機械器具などの不振から、前年同月比で1.7%減少し、67億21百万円と、2ヶ月連続のマイナスとなった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中3項目で改善、2項目で悪化、1項目で横ばいとなっている。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲40.8→今期▲20.4、仕入単価（逆指数）が前期49.0→今期67.3、採算が前期▲36.7→今期▲36.7、資金繰りが前期▲32.7→今期▲26.5、従業員数が前期▲4.8→今期▲7.5、業況が前期▲36.7→今期▲24.5となっている。先行き（R4年4-6月期）については、仕入単価、採算を除く3項目で悪化、1項目で横ばいとなっている。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の8.2%に対し実施は4.1%にとどまり、低調な動きとなった。先行き（R4年7-9月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウェイトが8.2%と、今期並みの投資マインドにとどまっている。

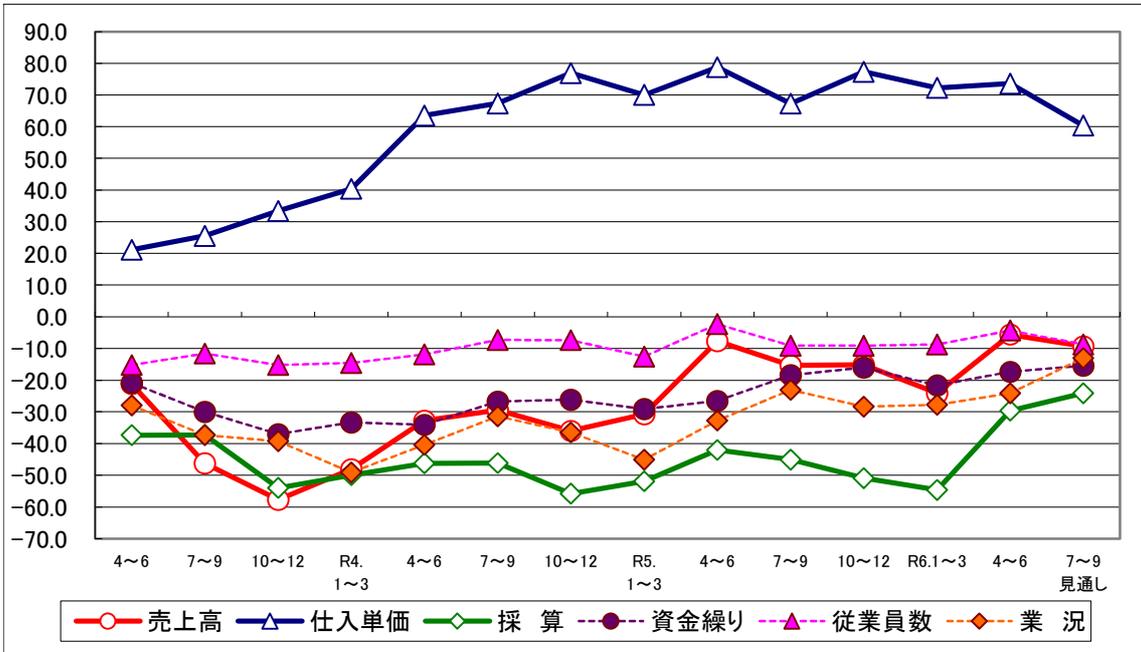
最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」が最も多く、1位に挙げた企業ウェイト16.3%、1位～3位までに挙げた企業36.7%となった。その他の見解としては、「緩やかな利用数の自然減をどうやってカバーするかが課題」、「昔からの固定客がいるが高齢化が進み購買力が落ちているため、売上高の低下を止められない」など、構造的な業界の課題を懸念する見解が目立っている。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

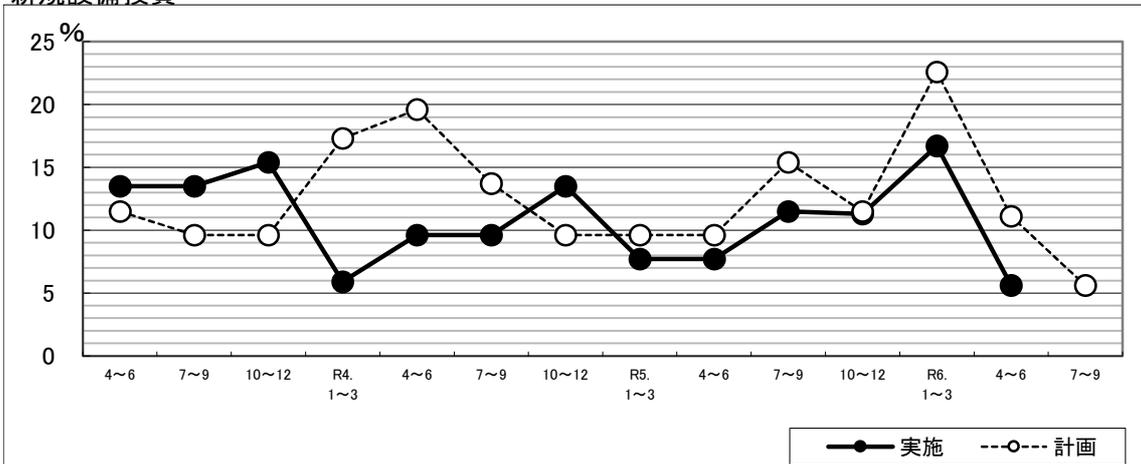
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
4~6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7~9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4~6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7~9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10~12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1~3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4~6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7~9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10~12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1~3	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8
4~6	▲ 5.6	73.6	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 24.1
7~9見通し	▲ 9.3	60.4	▲ 24.1	▲ 15.4	▲ 8.7	▲ 13.0

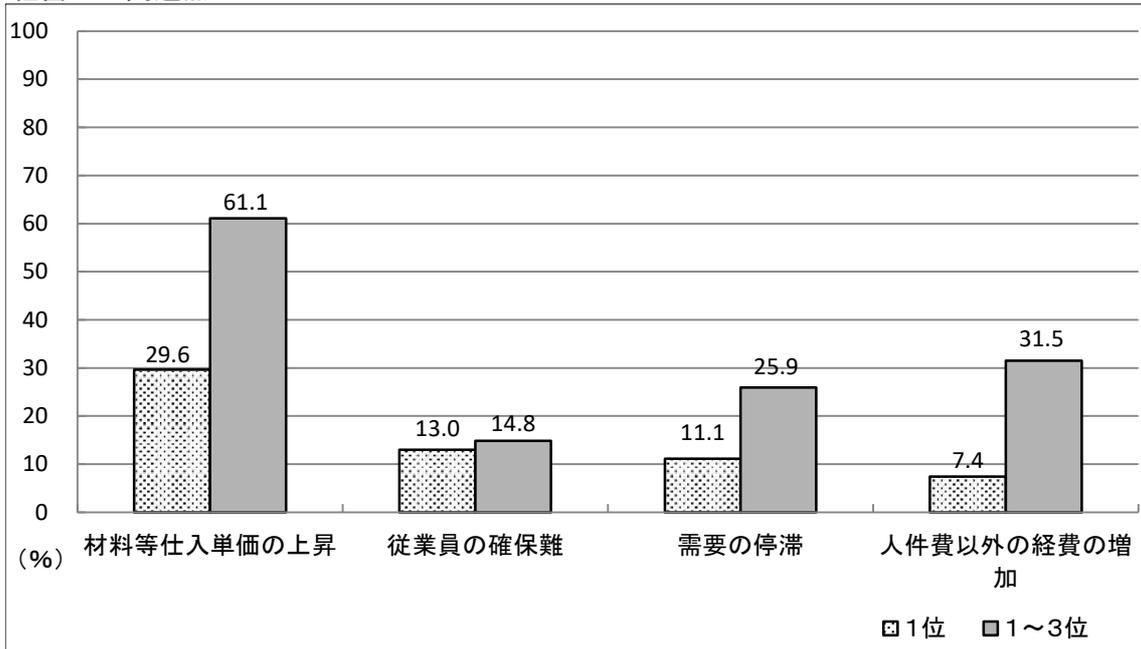
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・私たち小規模事業者は売上が増加しても、物の値段が上がっているだけで、価格転嫁が難しく、今もまだ厳しい状態。
- ・新幹線の開業効果も無くなり平常に戻りつつある。人員の確保も難しくなり、人件費も税負担も増加している。
- ・お客様の来店サイクルが長くなっていると同時に、人口の減少を感じるようになりました。物価が高くなり、自由に使えるお金がだんだん減っていると思います。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」（R6年5月、季節調整値）をみると、全体のサービス産業（第3次産業）活動指数は、指数値101.6、前月比マイナス0.4%と2か月ぶりの低下となった。

これまでのサービス産業活動を振り返ると、1月は卸売業等が低下したことなどを受け全体として低下したが、2月は堅調な財・サービス消費を受けて「運輸業、郵便業」や「金融業、保険業」など多くの業種が上昇した。その後、3月は低下、4月は「運輸業、郵便業」を中心に多くの業種が上昇し、5月は「運輸業、郵便業」、「生活娯楽関連サービス」などの業種で低下、全体としても低下している。総じてみれば、サービス消費は一進一退の状況にあるといえる。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中5項目で改善、1項目で悪化となった。項目別の指数は、売上高が前期▲24.1→今期▲5.6、仕入単価（逆指数）が前期72.2→今期73.6、採算が前期▲54.7→今期▲29.6、資金繰りが前期▲21.6→今期▲17.3、従業員数が前期▲8.7→今期▲4.3、業況が前期▲27.8→今期▲24.1となっている。また、先行き（R6年7～9月期）については、4項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画11.1%に対し実施が5.6%と、精彩を欠く投資動向となった。先行き（R6年7～9月期）についても、何らかの投資を考える企業ウエイトは5.6%にとどまっている。

最後に、経営上の問題点については、「材料等仕入単価の上昇」（1位に挙げた企業29.6%、1位～3位までに挙げた企業61.1%）への指摘が最も多い。個別の見解として、「物価の上昇に売上高の伸びが付いていけない」、「新幹線効果がなくなり、人件費も税負担も増加している」、「お客様の来店サイクルが長くなっている」など悲観的な見解が目立っている。

全国・福井景気動向 令和6年1月～3月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0.0	-0.1～ -15	-15.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	横ばい	やや悪化	悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 9.6	72.0	▲ 26.2	▲ 13.4	▲ 3.4	▲ 16.4
	製造業						
	DI値	▲ 11.4	72.3	▲ 23.4	▲ 13.2	▲ 1.8	▲ 16.5
	建設業						
	DI値	▲ 13.1	74.7	▲ 23.9	▲ 7.6	▲ 6.3	▲ 11.0
	小売業						
	DI値	▲ 20.1	68.2	▲ 32.1	▲ 20.2	▲ 3.4	▲ 26.5
	サービス業						
DI値	▲ 0.9	72.7	▲ 24.1	▲ 10.9	▲ 2.2	▲ 11.4	
福井	全体						
	DI値	▲ 9.1	69.1	▲ 26.1	▲ 17.2	0.0	▲ 17.6
	製造業						
	DI値	0.0	66.7	▲ 15.8	▲ 13.2	8.6	▲ 2.6
	建設業						
	DI値	▲ 8.3	66.7	▲ 12.5	4.2	9.5	▲ 12.5
	小売業						
	DI値	▲ 20.4	67.3	▲ 36.7	▲ 26.5	▲ 7.5	▲ 24.5
	サービス業						
DI値	▲ 5.6	73.6	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 24.1	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

